



## PRESS RELEASE

報道関係各位

2026年6月10日

常石造船株式会社

# 常石造船 AI 駆動開発を活用した内製化で調達システムを刷新 ークラウドベースの次世代 DX 基盤構築と完全内製化による AI 人材育成を同時に実現

常石造船株式会社（本社：広島県福山市 代表者：代表取締役社長執行役員 奥村幸生、以下「常石造船」）は、稼働開始から 15 年以上運用している資機材の調達・在庫を一元管理する調達システムを刷新するにあたり、AI 駆動開発による完全内製化に着手しました。

本取り組みでは、AI 駆動開発を前提とした「高速なシステム開発」と「継続的な機能改善」が可能なシステム基盤の構築を推進しています。具体的には、Kong 株式会社（本社：東京都港区 代表者：代表取締役社長 有泉大樹）の API マネジメントプラットフォーム「Kong Konnect」による統合的な API・認証管理と、株式会社 Scalar（本社：東京都新宿区 代表者：代表取締役 CEO 深津航）の分散データ基盤「ScalarDB」を採用。クラウドベースのマイクロサービス型アーキテクチャへと刷新することで、ビジネスの変化に俊敏に対応できる極めて柔軟性の高い次世代システム基盤を実現します。

〈AI 駆動開発による圧倒的な生産性向上と、常石グループ造船セグメント全体への展開〉

本プロジェクトでは、通常は長期間を要する基幹システムの刷新に対し、AI 駆動開発を本格導入しました。これにより、設計・実装・テスト工程の 70%以上削減見込みとなり、劇的な開発スピード向上を実現しています。さらに、本システムは常石グループの造船セグメント各社で利用可能なマルチカンパニー仕様として開発を進めており、業務ごとに利用システムを標準化・一本化する「1 業務・1 システム」の考え方のもと、運用効率の向上と管理負荷の低減を図っています。将来的には、常石グループ造船セグメント全体の競争力を高めるグループ共通 DX 基盤としての活用・水平展開も視野に入れていきます。

〈背景：造船事業の競争力を左右する「調達」の次世代化と、外部依存からの脱却〉

造船事業において、資機材の調達・在庫管理は、納期短縮、コスト競争力に直結する経営の生命線です。しかし、常石造船が長年運用してきた調達システムは、構造の複雑化やシステムの分断、保守運用の属人化が進み、激変する市場環境やデータ活用への迅速な対応が困難なレガシー化が課題となっていました。単なる延命措置ではなく、将来的な AI・データ活用を見据えた根本的な刷新が不可欠であると判断し、AI 駆動開発による完全内製化を選択しました。これにより、外部依存から脱却し、経営戦略の変更に即座に適應し続けることができ、変化に強い次世代のシステム基盤の構築へと舵を切りました。

〈取り組み内容：変化に強い「マイクロサービス型」次世代アーキテクチャの構築〉

今回の刷新では、従来の密結合なレガシーシステムから脱却し、AI 駆動開発のポテンシャルを最大限に発揮させるクラウドネイティブなマイクロサービス型アーキテクチャへの転換を推進しています。



### 1) 安全かつシームレスなシステム連携 (Kong Konnect の活用)

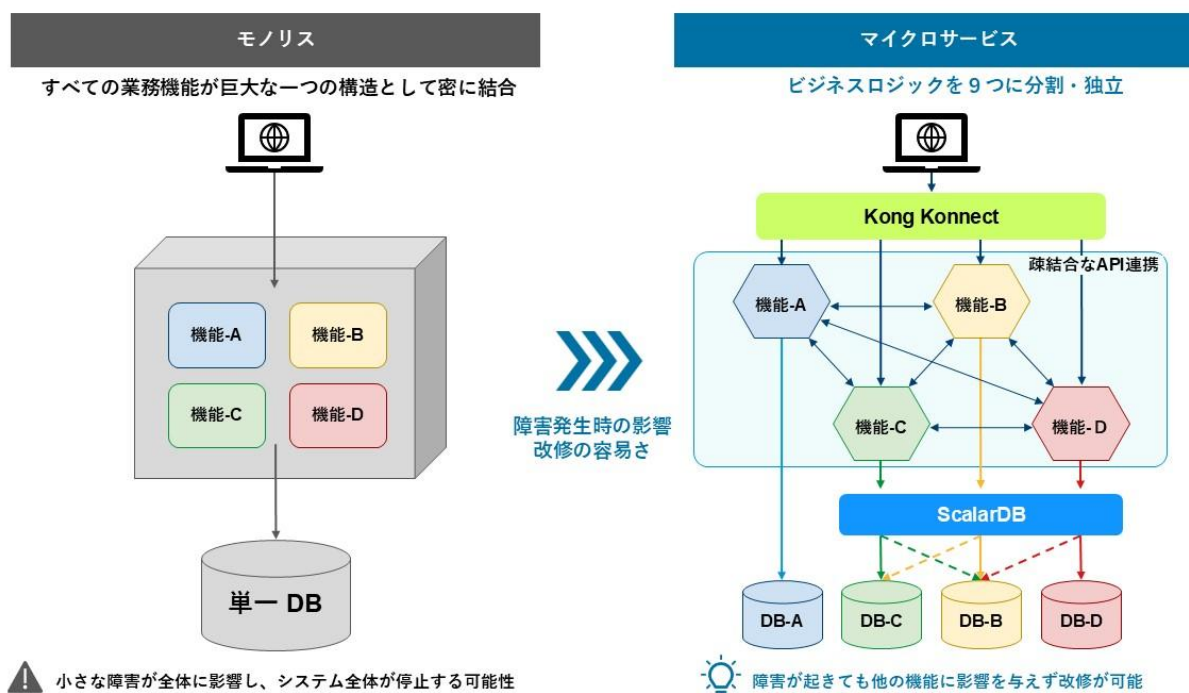
Kong Konnect を採用し、統合的な API 管理と強固な認証基盤を確立。複数のサービス間をセキュアかつ高速につなぐことで、システム全体のガバナンス (統制) を高めつつ、開発スピードを損なわない俊敏な連携環境を実現します。

### 2) 俊敏性と事業継続性の両立

システムを機能単位でサービス分割 (マイクロサービス化) することにより、システム停止リスクを極小化。保守性の向上だけでなく、ビジネスの変化に応じた継続的で迅速な機能改善が可能な柔軟性を獲得します。

### 3) 既存資産を活かす高信頼データ基盤 (ScalarDB の活用)

データベースの刷新にあたっては、既存データ資産も有効活用していきます。ScalarDB をハブとして機能させることで、複数データベース間の強固なデータ整合性を維持し、サイロ化されていたデータの横断的活用を実現します。



常石造船の調達システム構成イメージ

### 〈AI 人材と内製化〉

常石造船では AI 駆動開発に本格的に取り組んでおり、AI 人材育成を実施、システム開発の内製化に寄与しています。AI 駆動開発では、設計・実装・テスト工程を AI が担うことで大幅な工数の削減だけでなく、人間は分析結果の理解やリファクタリング方針の判断、業務要件との整合確認など、より高度な意思決定に集中できる環境づくりを進めることができます。常石造船では、AI を単なる業務効率化ツールとしてではなく、将来の事業や業務改革を支える基盤技術として位置づけています。

### 〈常石造船 執行役員 経営管理本部 情報戦略室 室長 森悟志コメント〉

造船業の競争力の源泉である調達において、変化に即応し続けるためには、IT の主導権を自社が握る完全内製化が不可欠でした。今回、Kong Konnect や ScalarDB といった先進技術と AI 駆動開発を掛け合わせることで、設計からテストまでの工程の 70%以上の削減を見込み、従来の常識を覆す開発スピードを実現することができました。単なるシステム刷新に留まらず、今後はこれをグループ共通の DX 基盤へと水平展開し、グループ全体の競争

力を圧倒的なスピードで引き上げてまいります。

今後も常石造船は、AI 駆動開発と内製化を通じて、各業務領域のデータ活用・連携を高度化し、造船業界における変化に強く進化可能な次世代システム基盤の構築を推進してまいります。

#### ■Kong 株式会社（コングカブシキガイシャ）



##### The AI Connectivity Company

Kong は、API および AI コネクティビティ技術をリードする企業として、エージェント型 AI 時代を支えるインフラの構築に取り組んでいます。Fortune 500 企業からスタートアップまで幅広い組織に信頼されており、統合型 API・AI プラットフォーム「Kong Konnect」を通じて、API および AI モデル間を流れるインテリジェンスの安全な接続、管理、高速化、ガバナンス、収益化を実現します。

代表者：代表取締役社長 有泉大樹

本社所在地：東京都港区赤坂 9-7-1 ミッドタウン・タワー18 階

設立年：2023 年 08 月

事業内容：API および AI コネクティビティ管理製品の販売、導入支援、保守、サポート

企業サイト：<https://jp.konghq.com>

#### ■株式会社 Scalar（カブシキガイシャスカラー）



株式会社 Scalar は、「データマネジメントの未来を創る」をビジョンとし、東京とサンフランシスコに拠点を持つ、2017 年設立の日本発グローバルスタートアップです。複数・異種のデータベースを仮想的に統合し、トランザクションや分析問合せを実現する Universal HTAP エンジン「ScalarDB」と、データの真正性の課題を解決するデータ改ざん検知ソフトウェア「ScalarDL」の開発・販売をしています。

代表者：代表取締役 CEO 深津航、代表取締役 CTO 山田浩之

本社所在地：東京都新宿区袋町 5 番 1 号 Faro 神楽坂 209

設立年：2017 年 12 月

事業内容：データマネジメント製品の研究開発・販売、導入支援、サポート

企業サイト：<https://scalar-labs.com/ja>

#### ■常石造船株式会社

常石造船（本社：広島県福山市沼隈町常石 1083 番地）は、造船・海運業を中心に事業展開する常石グループの中核会社で、船舶の建造と修繕を営んでいます。国内の常石工場（本社）とフィリピン、中国の海外工場を拠点に、ばら積み貨物船、コンテナ運搬船、タンカーなどを建造しています。

企業サイト：<https://www.tsuneishi.co.jp/>

代表者：代表取締役社長執行役員 奥村幸生

事業内容：船舶の建造、修繕



創業：1917年（大正6年）7月

資本金：1億円

従業員：847人（2026年1月1日時点）

造船事業関連会社：

TSUNEISHI HEAVY INDUSTRIES (CEBU), Inc.（フィリピン・セブ）

<http://www.thici.com/>

常石集団（舟山）造船有限公司（中国・浙江省）

<https://www.tsuneishi.co.jp/tzs/chinese/>

常石鉄工株式会社（広島県福山市）

<https://www.tsuneishi.co.jp/iron-w/>

常石エンジニアリング株式会社（広島県福山市）

<https://www.tsuneishi.co.jp/engr/>

常石三保造船株式会社（静岡県静岡市）

<https://www.tsuneishi.co.jp/miho/>

常石呉ドック株式会社（広島県呉市）

<https://www.tsuneishi.co.jp/kure/>

常石ソリューションズ東京ベイ株式会社（東京都港区）

<https://www.tsuneishi.co.jp/tokyobay/>

常石由良ドック株式会社（和歌山県日高郡）

<https://www.tsuneishi.co.jp/yura/>

常石造船昭島研究所株式会社（東京都昭島市）

<https://www.tsuneishi.co.jp/akishima/>

－ 本件に関するお問い合わせ先 －

常石グループ株式会社

コーポレートコミュニケーション部

メール：pr@tsuneishi.com

TEL：084-987-4915

